

水晶発振器温度特性検査装置 KCT - 4080

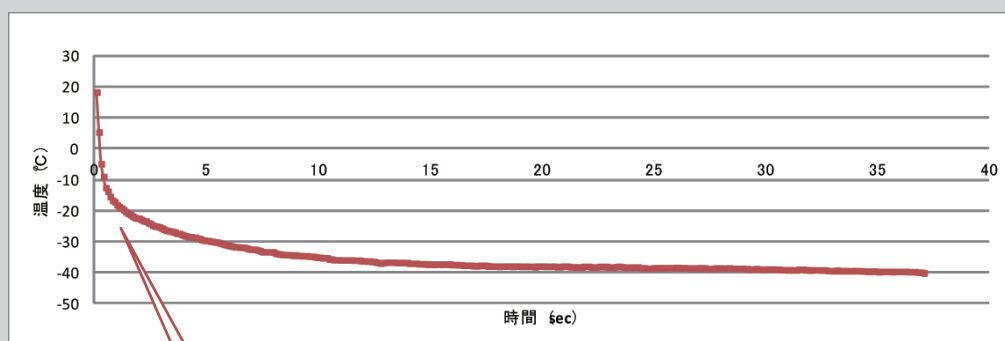
世界最速の冷却・加熱速度！

※当社調べ

当社による性能試験データ

デバイスの短時間による冷却・加熱（-40℃～100℃）が実現できます。

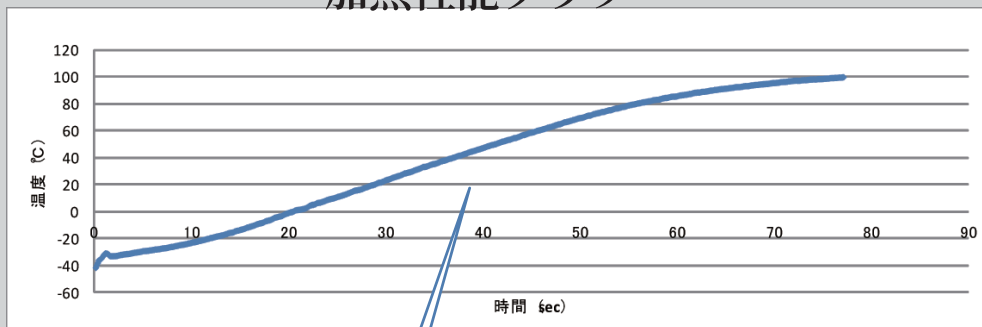
冷却性能グラフ



急速に冷却

※温度はデバイス表面に熱電対を取り付けて計測。

加熱性能グラフ



一定の傾きで温度上昇

※温度はデバイス表面に熱電対を取り付けて計測。



本装置は、冷却・加熱ユニットやユニバーサル周波数カウンタなどをラックキャビネットに収納しています。

水晶発振器を温度コントロールされたエアにより

冷却・加熱（-40℃～100℃）したときの発振周波数を計測する装置です。

短時間で冷却・加熱を繰り返すことができ、またラックキャビネット型なので生産ラインでの全数チェックにも適しています。

冷却・加熱エアを直接デバイスに吹き付けるのでソケットなどで固定できるものなら水晶発振器以外の半導体デバイスの冷却・加熱温度特性を計測することができます。

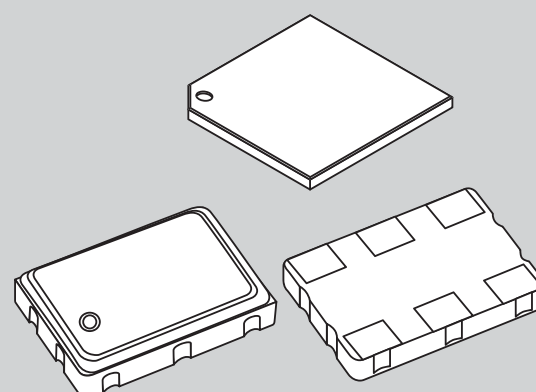
直流安定化電源を標準搭載しているので

冷却・加熱中に半導体デバイスへの電源供給も可能です。

今回、KCT-4080では水晶発振器を対象にした装置のため、

ユニバーサル周波数カウンタにより発振周波数を計測していますが、

電圧・抵抗などの計測への応用も可能です。

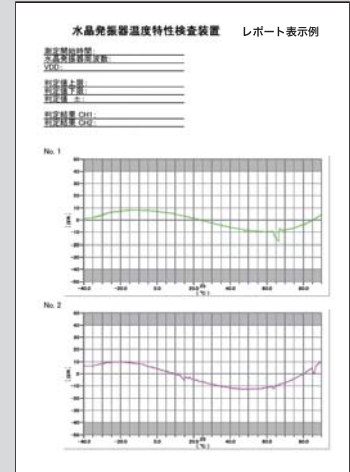
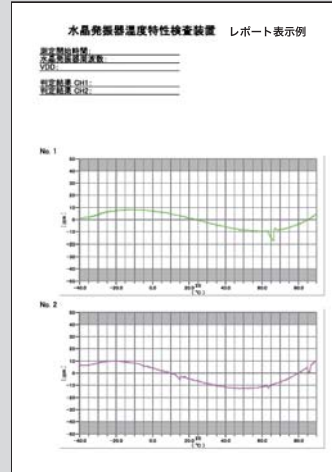


生産ラインでのタクトタイム短縮を考慮したアプリケーションソフト

1画面で解析に必要なパラメータ設定や良否判定ができます。
冷却・加熱時の発振周波数をグラフ表示でき、
プリンタからのレポート印刷も可能です。



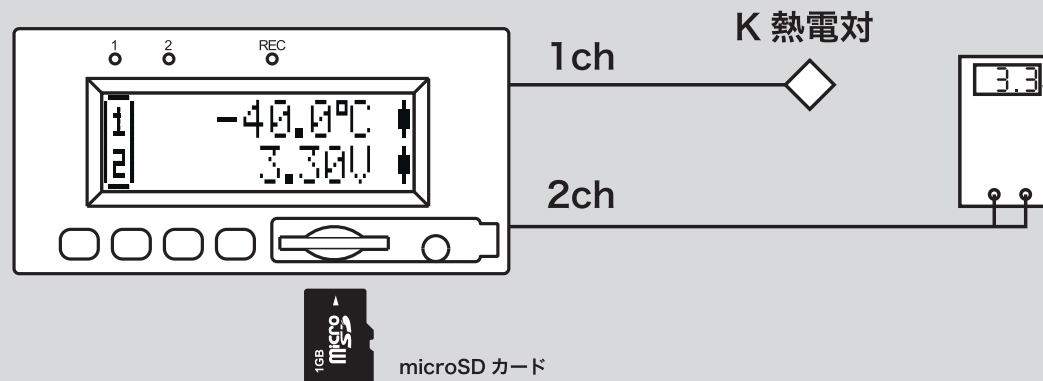
アプリケーション画面



レポート表示

水晶発振器の電源電圧を直流安定化電源より供給できます。

1.8V, 2.5V, 3.3V, 5.0Vなど可変可能。
直流安定化電源の表示分解能が0.0Vまでのため、組み込み型記録計を利用することで0.00Vまで微調整が可能です。
また、熱電対により炉内の温度も同時に表示することができます。



組み込み型記録計「デジタルパネルレコーダ」を標準搭載。
炉内温度と水晶発振器の電源電圧を同時に表示、記録することができます。

仕様

項目	仕様	
型式	水晶発振器温度特性検査装置 KCT-4080	
温度範囲※	-40℃～+100℃	
温度切替時間※	+20℃～-20℃ 約3秒	-20℃～80℃ 約45秒
冷却・加熱条件	冷却時エア消費量	650～750L/min
	冷却時供給エア圧力	0.5MPa～0.7MPa
	加熱時エア消費量	20～30L/min
	加熱時供給エア圧力	28kPa～35kPa
ヒータ	熱風ヒータ 100V 350W	寿命：約1000時間
電源	本体：単相 200V±10% 10A 50/60Hz	モニタ：単相 100V±10% 1A 50/60Hz
外形寸法	1580(H)×700(W)×800(D)mm 突起部含まず	
使用温度	25℃±3℃	
その他	ユニバーサルカウンタ	型式 53220A 350MHzmax
	温度計測	K熱電対 ±0.1% of rdg+0.5℃
	水晶発振器 供給電源	±0.05% of rdg+2digit(23℃±5℃)

※デバイスのパッケージ表面の温度となります。